

5. まとめ

これまでに調査した地域は島内の一部であり、採集した個体数も少ないため、これだけで淡路島のミドリシジミについて論じることはできないが、今までの調査から次のようなことが言えると思う。

- (1) 淡路島では、平地や低山地のハンノキ林に棲息し、個体数は極めて多い。このような分布は近畿以北と共通であり、四国の分布状況とはかなり違っている。
- (2) 成虫の出現期は年によって差があるが、阪神地方に比較すると、約1週間程度発生が早いようである。
- (3) 雌はO型が最も多いが、A型、B型、AB型もそれぞれ出現する。なお、O型やA型に入れた個体にも青色鱗がみられる。
- (4) 前後翅裏面の地色は一般に濃色で、阪神地方の個体との差異は認められない。

参考文献

1. 白水 隆(1965) 原色図鑑日本の蝶, 北隆館
2. 藤岡和夫(1972) 図説日本の蝶, ニューサイエンス社
3. 堀田 久(1956) 淡路島の蝶類, 兵庫生物Vol. 3, No. 3

南淡町でトラフシジミを採集

淡路島から未記録のトラフシジミを、南淡町で採集したので報告する。

- (1) 三原郡南淡町灘大川 1 ex. 1973年4月18日
- (2) 三原郡南淡町阿万上町 1 ex. 1973年5月5日

なお、南淡町灘ではもう1頭目撃しているの、当地方にはかなり発生しているものと思われる。

(藤平 明)

洲本市でリュウキュウムラサキ

1959年8月20日、洲本市宇山で梅本晃義氏が、リュウキュウムラサキ1♂を採集しておられたことがわかったので報告しておく。藤平氏の採集例は1968年であるためこれが淡路島で最初の記録になる。なお、標本は梅本氏が保管されている。

(坂口 操)